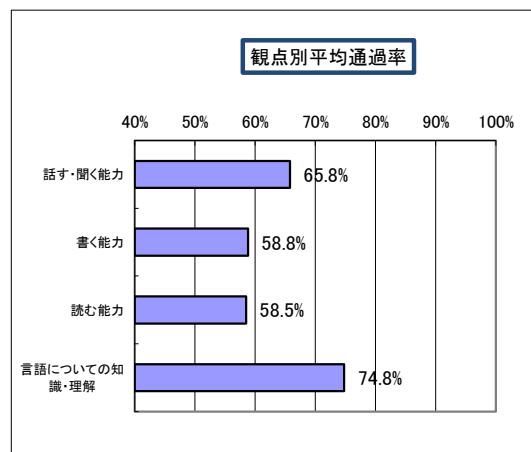
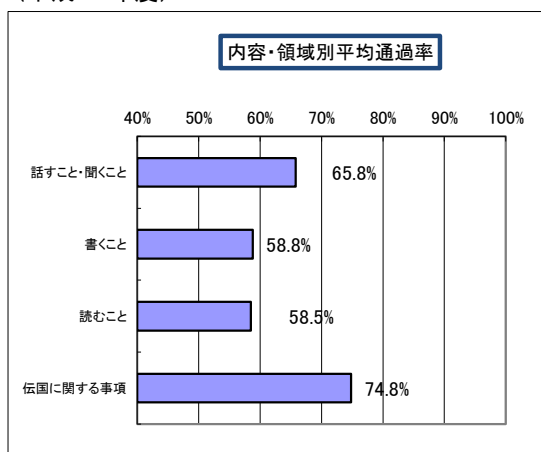


各教科の内容・領域別，観点別正答率比較と課題

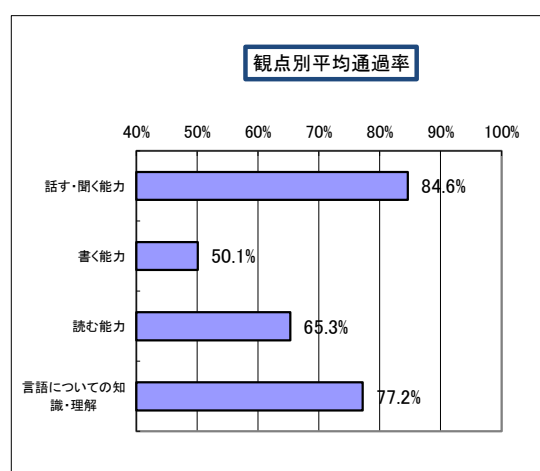
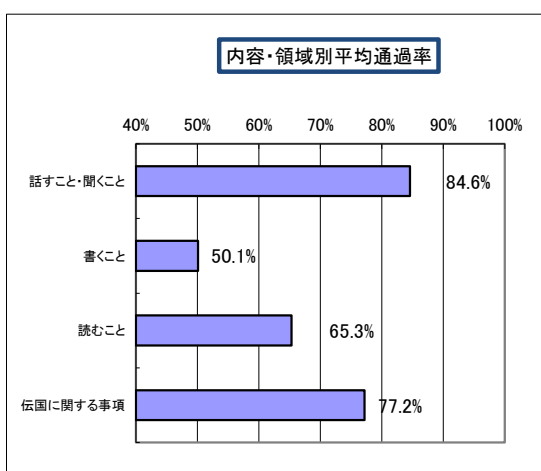
(1) 【国語】

小学校第5学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

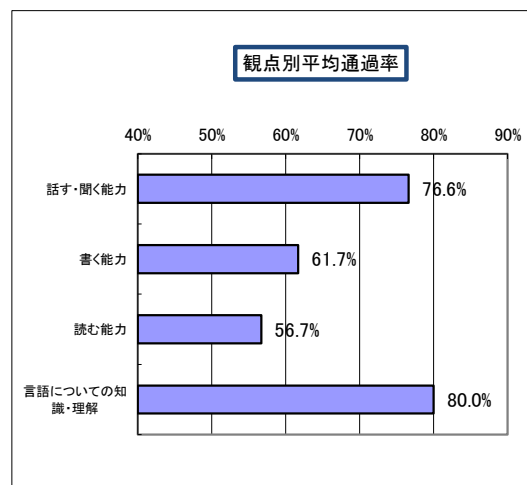
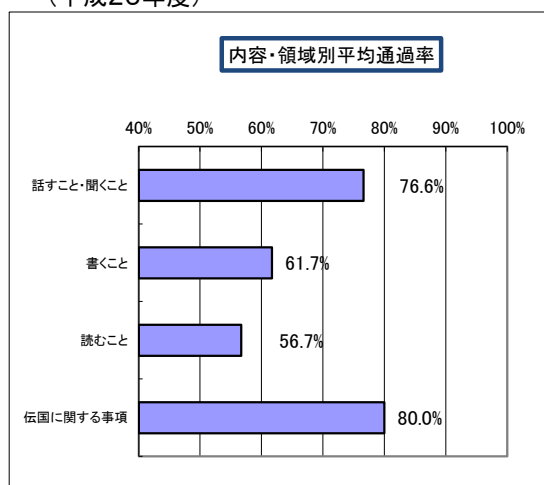
- 内容・領域別において、「書くこと」及び「読むこと」の内容・領域が，他の領域に比べて低い状況にある。この状況は継続しており，具体的な言語活動の中で，思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫・改善が求められる。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

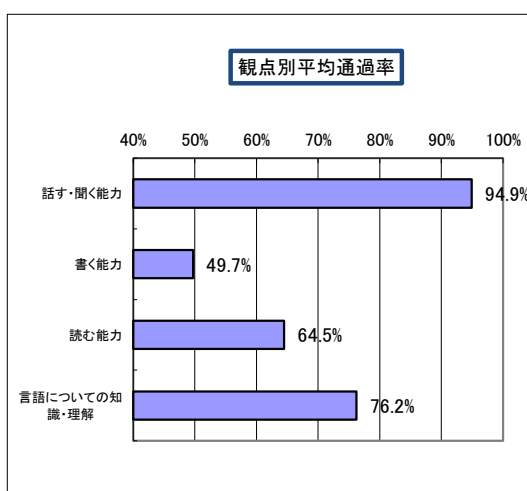
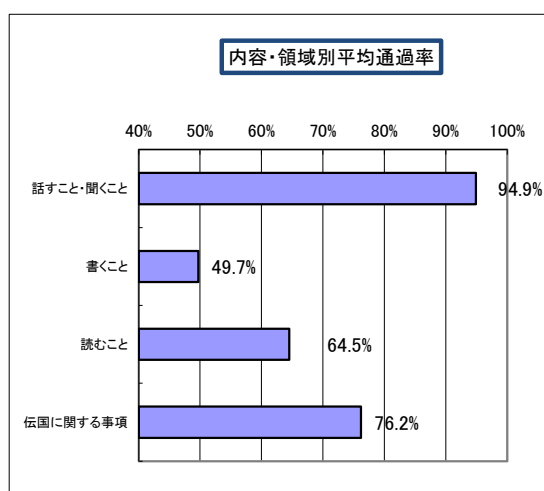
- 「基礎・基本」については，概ね定着しているが，「伝統的な言語文化や国語の特質に関する事項」のことわざや対義語を問う問題，「話すこと・聞くこと」の話の構成や内容上の工夫に注意して聞くことに課題がある。
- 「思考・表現」については，「読むこと」の登場人物の性格を叙述をもとに想像して読むことや「話すこと・聞くこと」の話し手の意図を考慮して質問したり感想を述べたりすること，「書くこと」の図表やグラフを読み取り，自分の意見を書くことに課題がある。
- 目的や意図に応じて話し合ったり，資料を提示しながら説明や報告をする中で，それらを聞いて助言や提案をしたりする言語活動を充実させるなどの授業改善が必要である。

中学校第1学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

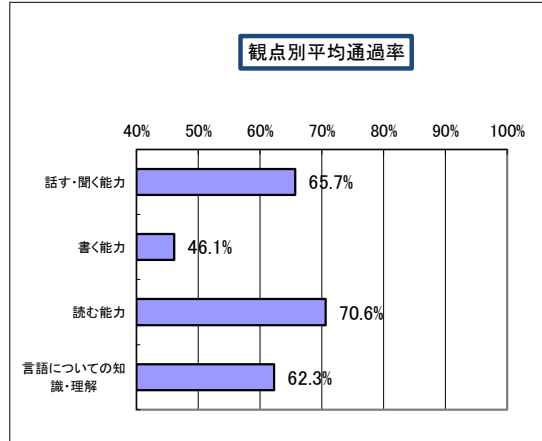
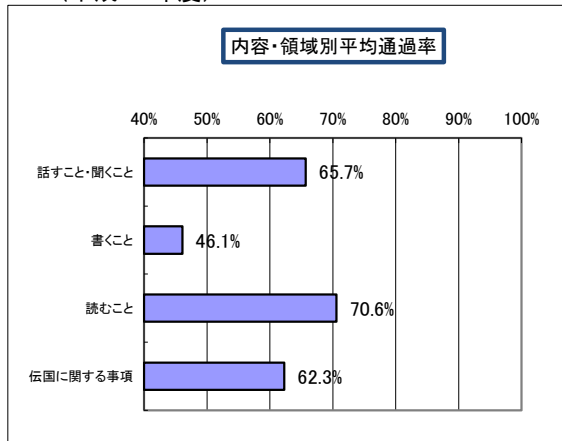
- 内容・領域別において、「書くこと」及び「読むこと」の内容・領域が、他の領域に比べて低い状況にある。この状況は継続しており、具体的な言語活動の中で、思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫・改善が求められる。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

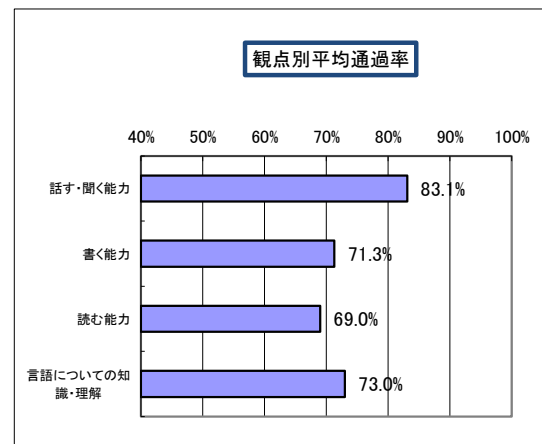
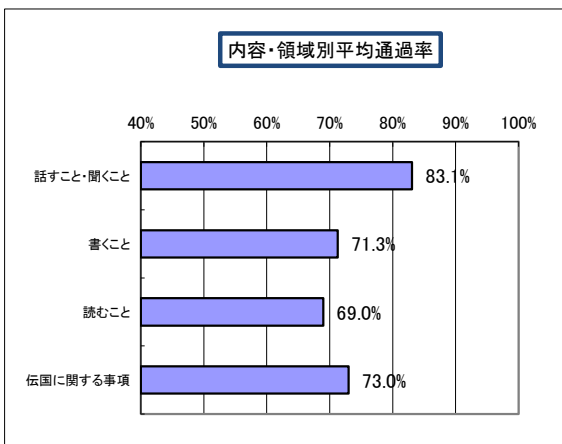
- 「基礎・基本」については、概ね定着しているが、「読むこと」の比喩を手掛かりに文脈をたどり内容を理解することや、段落相互の関係を正しく押さえ内容をとらえることなどに課題がある。
- 「思考・表現」については、「話すこと・聞くこと」の異なる立場や考えに注意して自分の考えをまとめ、論理的な構成や展開を考えて話すことや、「書くこと」の伝えたい事実や事柄について、根拠を明確にして書くことなどに課題がある。
- 日常生活の話題について対話や討論を行ったり、図表などを用いた説明や記録の文章や案内・報告をする文章を書いたりするなど、言語活動の充実を通じた授業改善が必要である。

中学校第2学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

- 内容・領域別において、「書くこと」の内容・領域が、他の領域に比べて低い状況にある。具体的な言語活動の中で、知識や技能が実生活に結び付くように、思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫・改善が求められる。

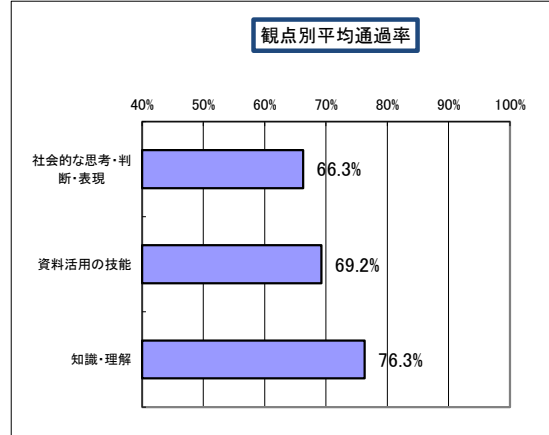
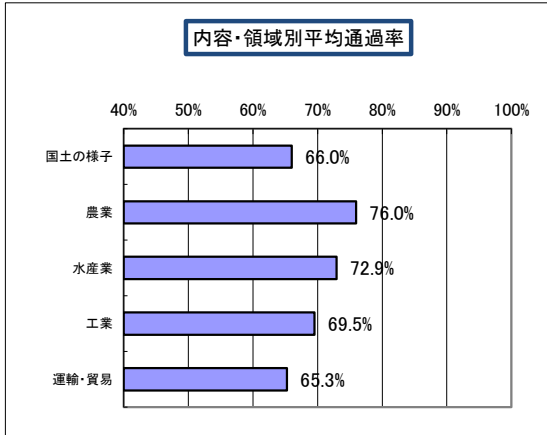
鹿児島学習定着度調査の課題と対応

- 「基礎・基本」については、概ね定着しているが、「読むこと」の段落相互の関係を正しく押さえ内容をとらえることや、単語の活用についての理解、漢字の書き取りの一部などに課題がある。
- 「思考・表現」については、「書くこと」の多様な方法で材料を集め、比較・検討しながら自分の考えをまとめたり、事実や事柄が相手に効果的に伝わるように、説明を加えて書いたりすることに課題がある。
- 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くなどの言語活動や各学習過程ごとの指導、各領域を関連させた指導の充実を図るなど、授業改善が必要である。

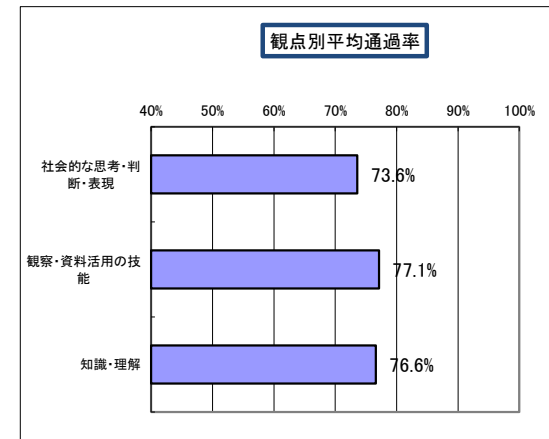
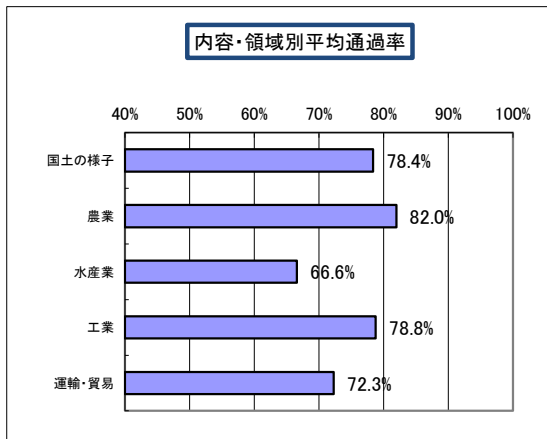
(2) 【社会】

小学校第5学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

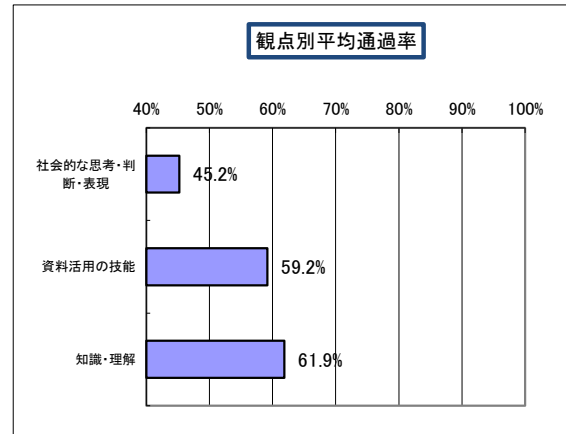
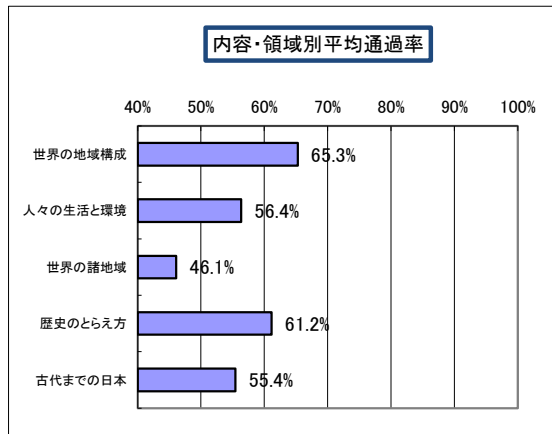
- 内容・領域別については、昨年度に比べると「水産業」の定着がみられたが、「国土の様子」の定着が図られていない。また、「運輸・通信」の定着がやや弱いという状況が続いている。観点別については、他の観点に比べ「思考・判断・表現」の定着が弱いという状況が継続している。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

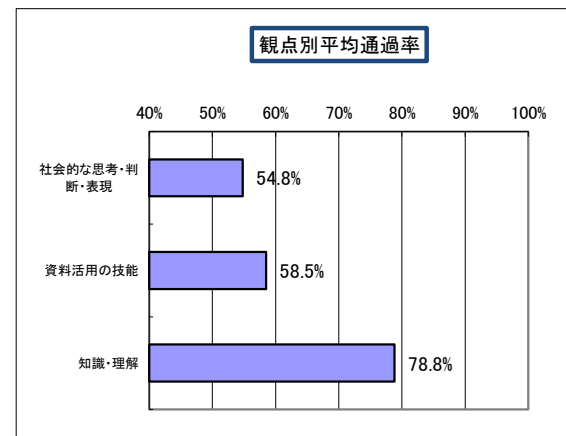
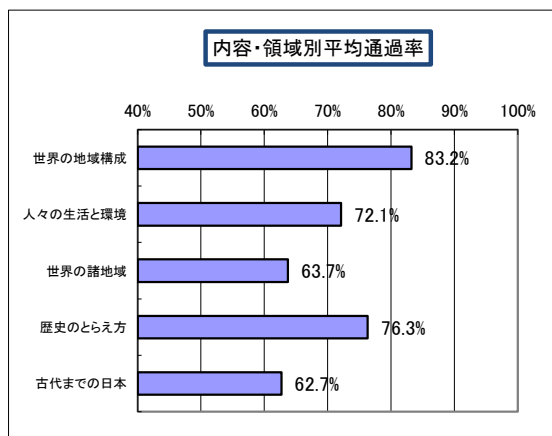
- 「基礎・基本」については、平均通過率は73.2%であり、概ね定着が図られている。グラフや資料から読み取ったことを答える問題において通過率が低い傾向がみられる。グラフ等の見方の指導や資料等の読み取りをもとに発表させたり話し合ったりさせる指導が必要である。
- 「思考・表現」については、平均通過率は66.3%であり、概ね定着が図られている。記述解答の問題の通過率は低くはないが、無答率が高くなる傾向がある。授業において書くことが苦手な児童には観点や文例を示すなど、書くことへの抵抗を減らす工夫が必要である。
- 獲得させたい社会的な見方や考え方を明確にした上で、資料を調べたり、自分の考えを書いてまとめたり、話し合ったりして学習課題の解決を図る授業をさらに充実させたい。

中学校第1学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

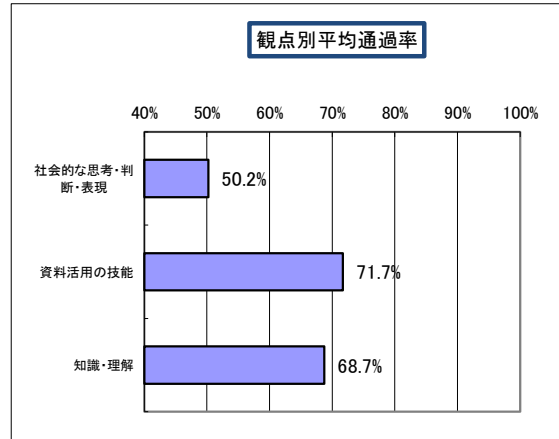
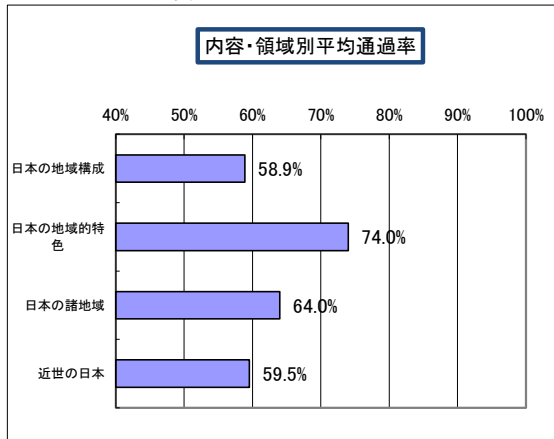
- 内容・領域別については、他に比べ地理的分野の「世界の諸地域」と歴史的分野の「古代までの日本」の定着が弱いという状況が継続している。観点別については、他の観点に比べ「思考・判断・表現」の定着が弱いという状況が継続している。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

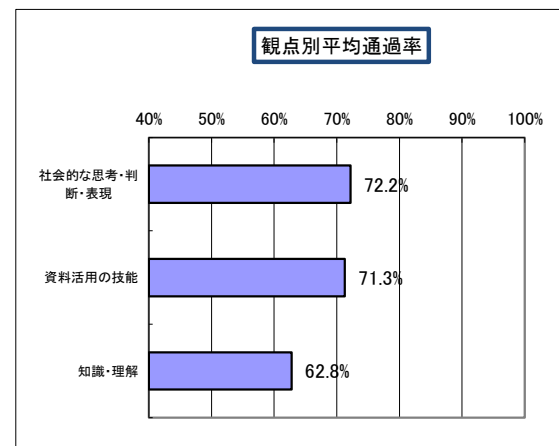
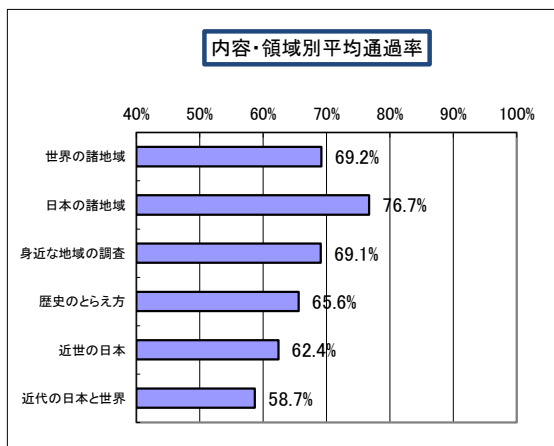
- 「基礎・基本」については、平均通過率は 61.2%であり、あまり定着が図られていない。特に、気候帯の特色や代表的な山脈名・半島名、歴史の時代区分や平安京遷都を答える問題等の通過率が低く、基本的なことがらについての定着を確認しながら授業を進める必要がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は 45.2%であり、あまり定着が図られていない。緯度経度に関する問題や国の特徴と位置を答える問題、記述解答で秦漢帝国の支配や国分寺がおかれた理由を答える問題等の通過率が低く、また、無答率が2割近い問題もあり、課題である。
- 教師からの説明だけでなく、地図や資料等を自分で調べたり、それをもとに自分の考えをまとめたり、話し合ったりする活動を通して、知識・理解を深めていく授業を重視したい。

中学校第2学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

- 学習指導要領改訂に伴う内容構成の変更及び移行措置の関係で、同じ内容・領域別での比較が難しいが、地理的分野に比べ歴史的分野の定着が弱いという状況は継続している。観点別については、今年度は他の観点に比べ「思考・判断・表現」の定着が弱かった。記述解答の問題が多くなり、資料から分かることなどを説明する力がまだ十分でないと言える。

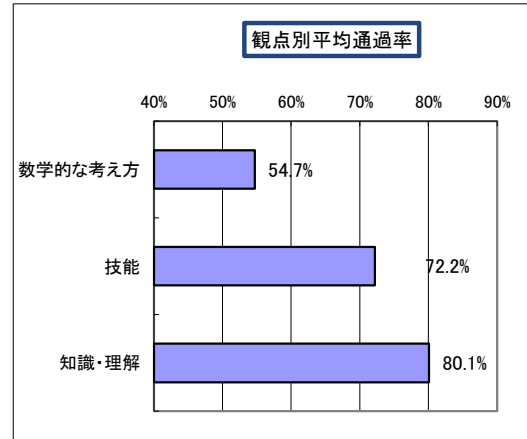
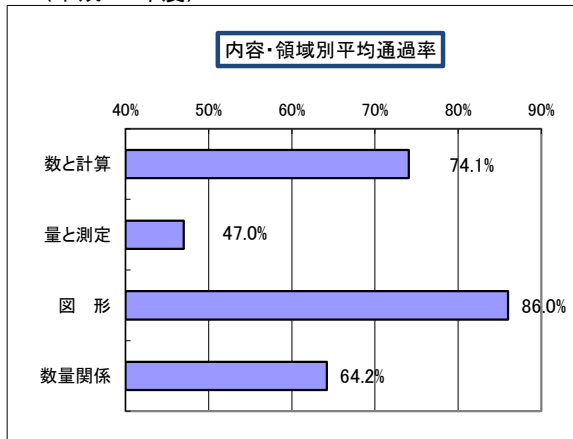
鹿児島学習定着度調査の課題と対応

- 「基礎・基本」については、平均通過率は 69.3%であり、やや定着が図られていない。長野県がある地方名や北方領土、ルネサンスや享保の改革を行った人物名等の問題の通過率が低く、基本的なことがらについても、十分理解しているか確認しながら授業を進める必要がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は 50.2%であり、やや定着が図られていない。資料の読み取りや時差、新航路開拓の理由や江戸幕府のキリスト教政策について説明を記述する問題等の通過率が低く、また、無答率が2割を超える問題もあり、課題である。
- 教師からの説明だけでなく、地図や資料等を調べて分かったことや社会的な事象の特徴・背景等を話し合ったり、説明したりする活動を通して、知識・理解を深めていく授業を重視したい。

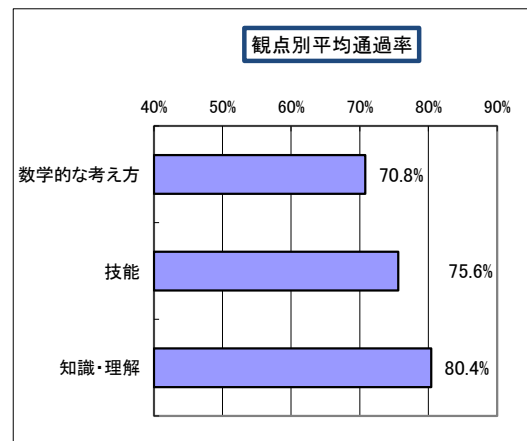
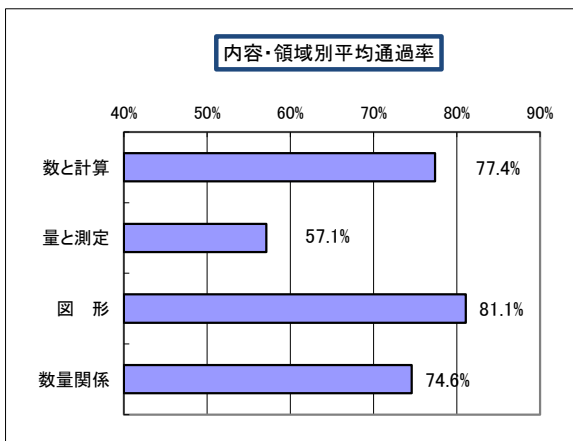
(3) 【算数・数学】

小学校第5学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

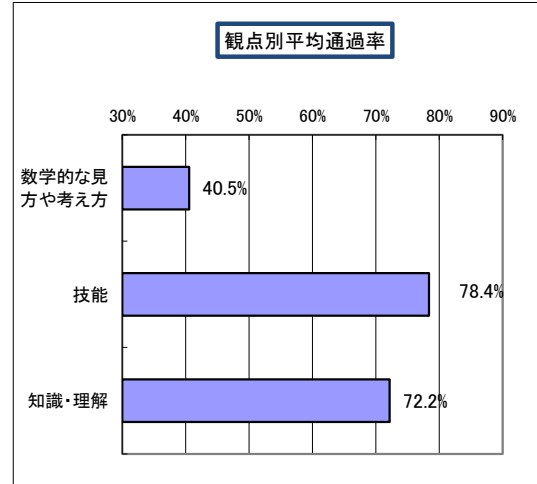
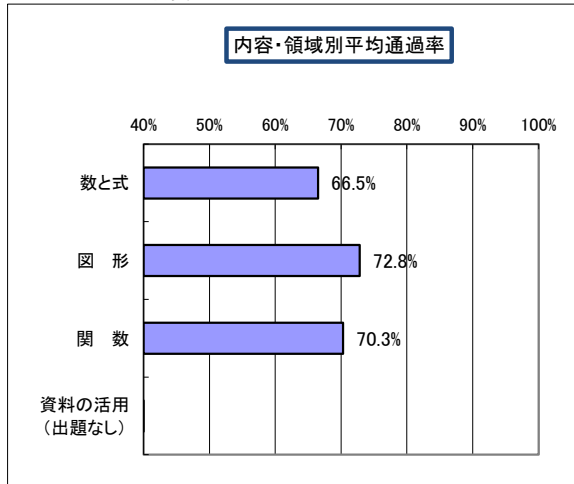
- 内容領域については、「量と測定」が他の領域に比べ低い状況にあり、観点別においては、「数学的な考え方」が他の観点に比べ低いという状況は継続しており、思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫・改善が求められる。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

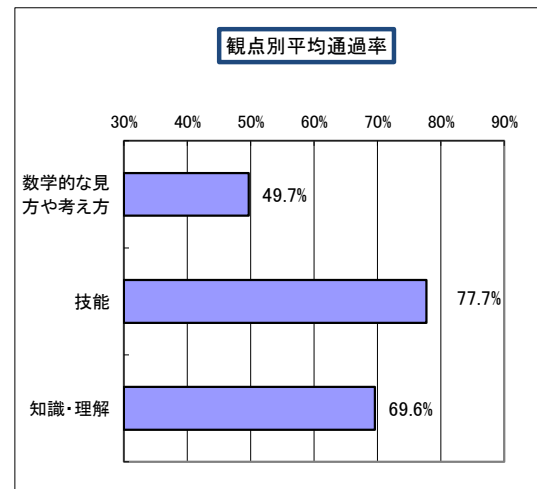
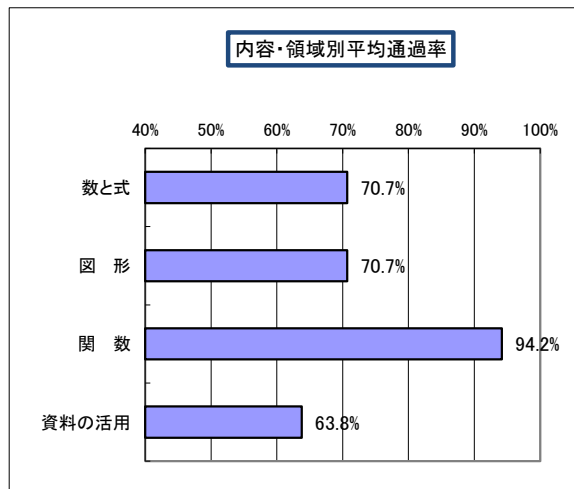
- 「基礎・基本」については、平均通過率は72.1%であり、概ね定着は図られているが、通過率が6割に届かない問題もあり、課題が見られる。特に、対応表から数量の関係を読み取り、その関係を問題の解決に生かすということに課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は40.9%であり、全体的に課題がある。特に、判断の理由を記述することや示された考え方を他の課題解決に生かして途中の過程を記述することに対する指導が不十分である。
- 言葉や数、式、図、表、グラフの意味や相互の関連を理解させること、課題や問題の意味、内容を的確に読み取る活動を工夫する必要がある。

中学校第1学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

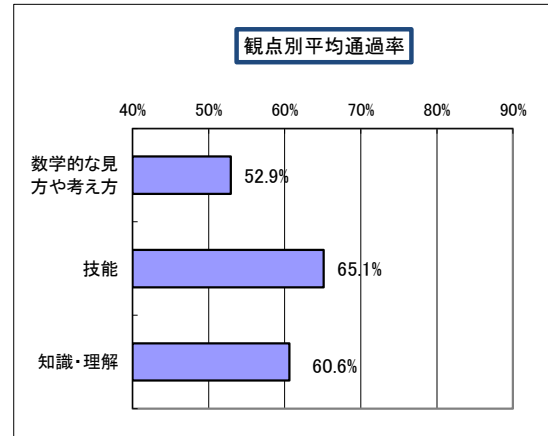
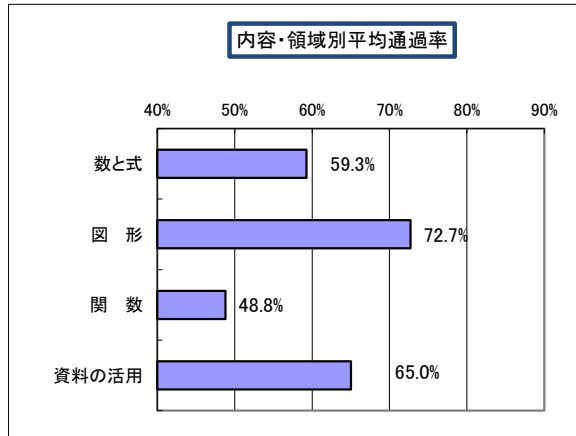
- 観点別においては、「数学的な考え方」が他の観点に比べ低い状況にある。「数学的な考え方」が他の観点に比べ低いという状況は継続しており、思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫・改善が求められる。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

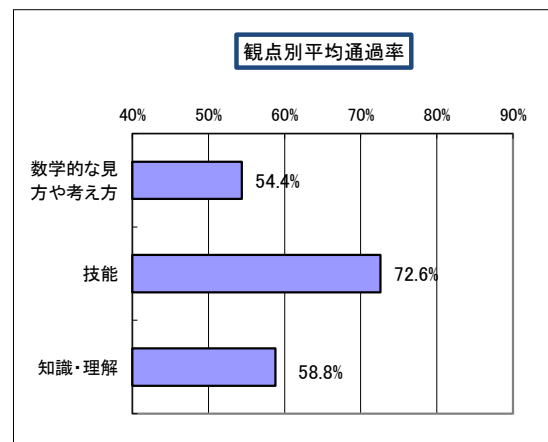
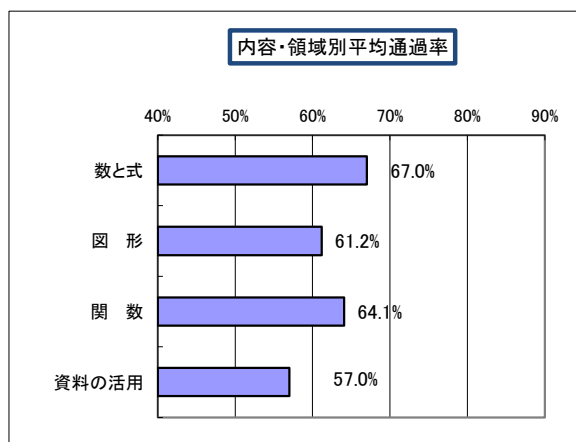
- 「基礎・基本」については、平均通過率は77.8%であり、概ね定着は図られているが、対応表から数量の関係を読み取り、その関係を問題の解決に生かすということや問題場面を不等式に表すことに課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率46.8%であり、全体的に課題がある。特に、与えられた情報から課題解決に必要な情報を読み取ることや判断の理由を記述することに対する指導が不十分である。
- 課題解決の理由や根拠、判断の理由を記述・説明する言語活動や具体場面や式・図・表・グラフとの関連を理解させる指導の工夫が必要である。

中学校第2学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

- 観点別においては、「数学的な考え方」が他の観点に比べ低い状況にある。「数学的な考え方」が他の観点に比べ低いという状況は継続しており、思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫・改善が求められる。

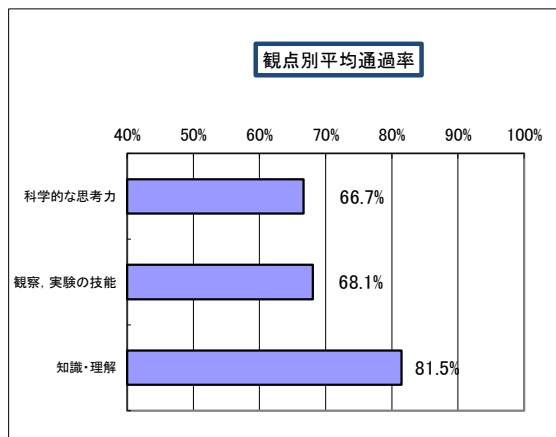
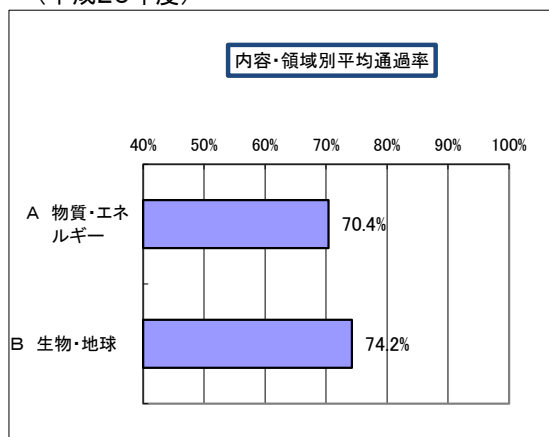
鹿児島学習定着度調査の課題と対応

- 「基礎・基本」については、平均通過率は73.1%であり、概ね定着は図られているが、式の変形や反比例の式やグラフについての基礎的・基本的な知識や技能の定着に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率28.9%であり、課題が大きい。特に、問6の問題においては、無答率が高く、問題の内容が理解できていない状況も伺える。複数の単元で学んだことを活用して課題を解決する学習に取り組むことが必要である。
- 数量が何を意味するのかを式・図・表・グラフで振り返ることや式・図・表・グラフから読み取れることを記述・説明する指導の工夫が必要である。

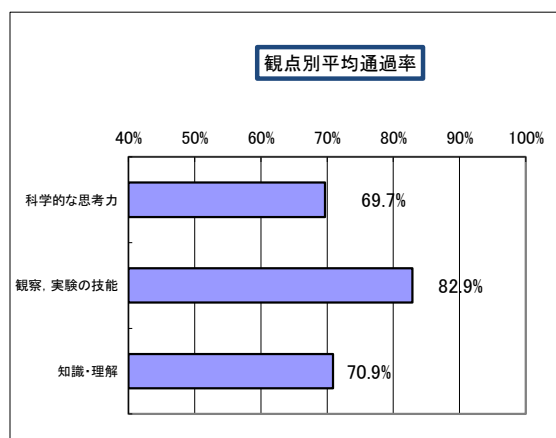
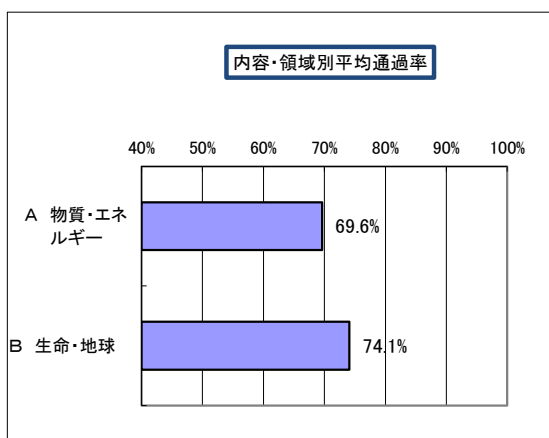
(4) 【理科】

小学校第5学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

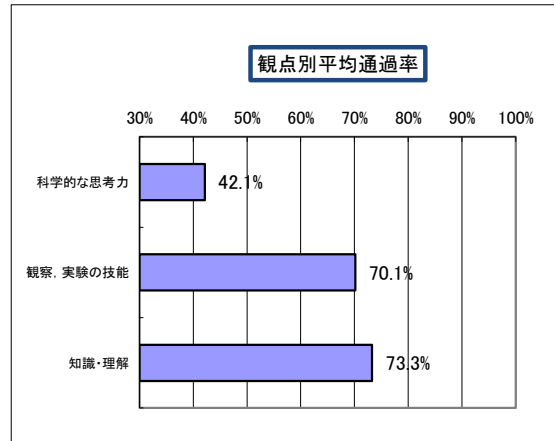
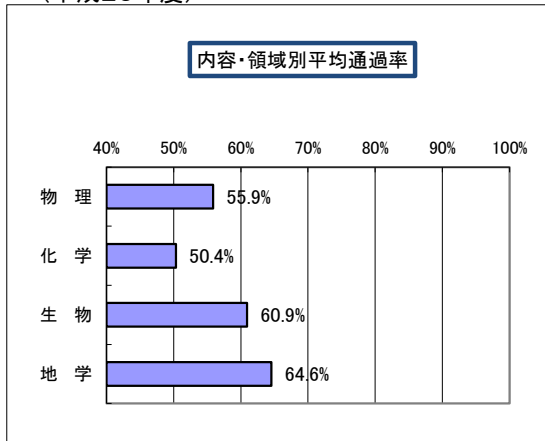
- 内容、領域別では同じような傾向であるが、観点別で知識・理解の通過率上がり、科学的な思考力が下がった。事象を関連付けて予想したり、実験結果を解釈し説明したりする思考・表現を求めたことによる。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

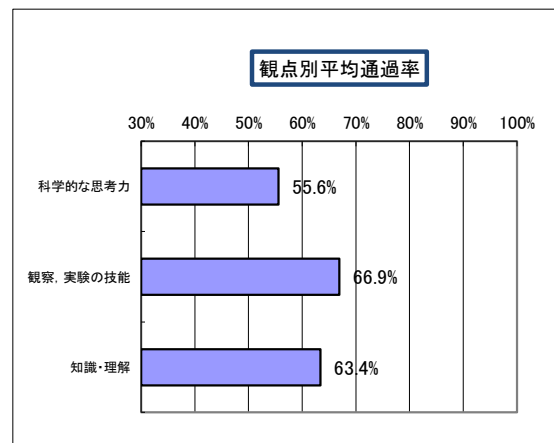
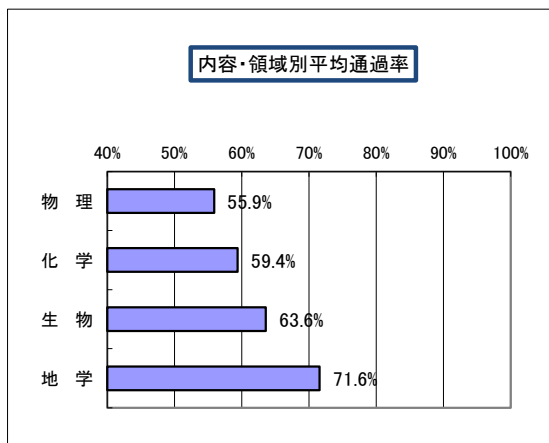
- 基礎的内容は概ね定着しているが、「電気の働き」の理解が不十分である。語句や記述による問題に関して無答率が増える傾向がある。
- 天体の規則性や事象を関連付けて理解したり、条件制御による実験結果を解釈し、説明したりすることが十分ではない。特に、論理的に記述することに課題が見られる。
- 「電気の働き」は「電流の働き」「電気の利用」、中学校の「電流」「電流と磁界」につながる系統的内容である。中学校での「電気回路」に課題が見られることから、実験結果を筋道立てて記述したり、図で表し発表したりする学習を通して、概念形成を図る必要がある。

中学校第1学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

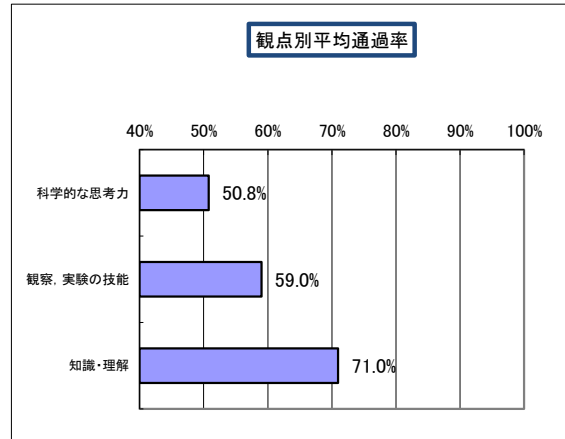
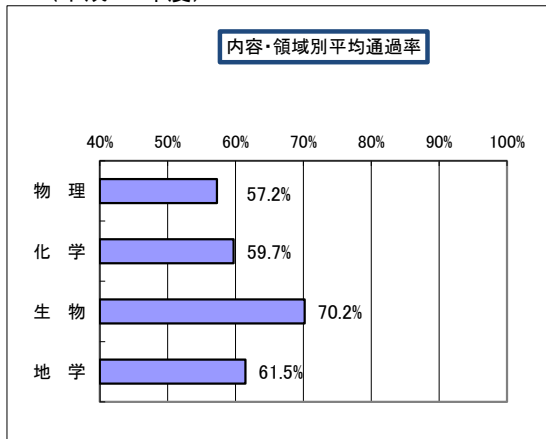
- 内容、領域別で見ると化学領域の通過率が下がっている。これは、観点別で科学的な思考力が下がったことと関連がある。粒子の考え方を活用し現象の説明を求めたことなど、概念形成による深い理解を求めたことによる。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

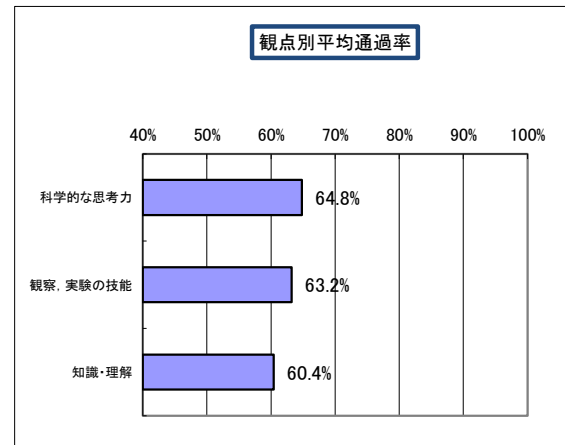
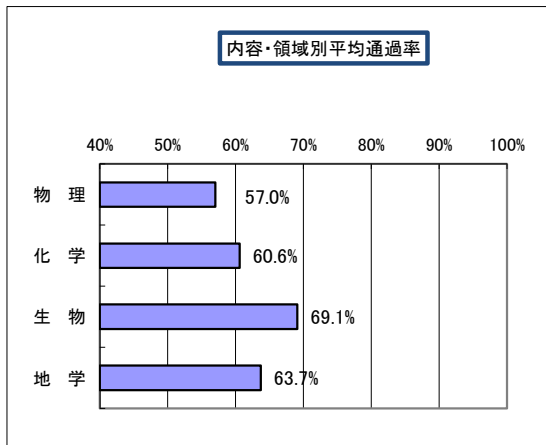
- 「光合成」などの身近な事象や「凸レンズの焦点」などの基本的な語句は理解しているが、花が咲く観点によりオオカナダモとマツが同じ種子植物であることやおんさの共鳴現象では振動数が同じであることなど、他の事象と関連付けた本質的な理解までいたっていない。
- 光の進み方や水溶液の状態など、視覚的に実感することが難しい現象をイメージして思考することが十分でなく、また、考えを記述し、論理的に説明することについて無答率が高くなる。
- 光の進み方の規則性について、作図や身近な現象との関連付けにより実感を伴う理解を図ったり、水溶液の学習については、単元を通して、生徒一人一人が観察・実験の予想や結果を粒子モデルで説明する活動を取り入れたりして、応用の利く概念形成を図っていく必要がある。

中学校第2学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

- 内容、領域別では同じような傾向が見られるが、観点別では知識・理解の通過率が上がり、科学的な思考力が下がっている。知識について基本的な語句の理解を求めたのに対して、科学的な思考力では、粒子概念や空間概念をもとにした説明や予想を求めたことによる。

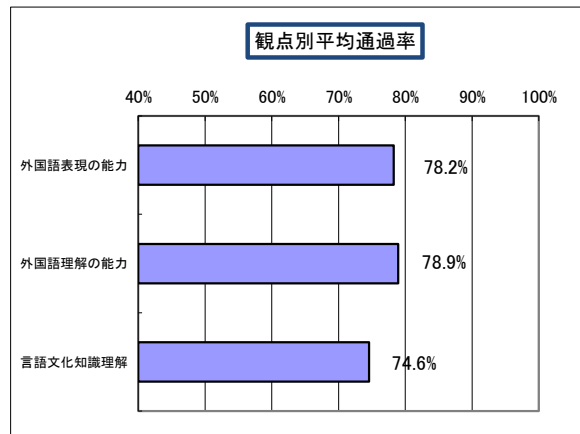
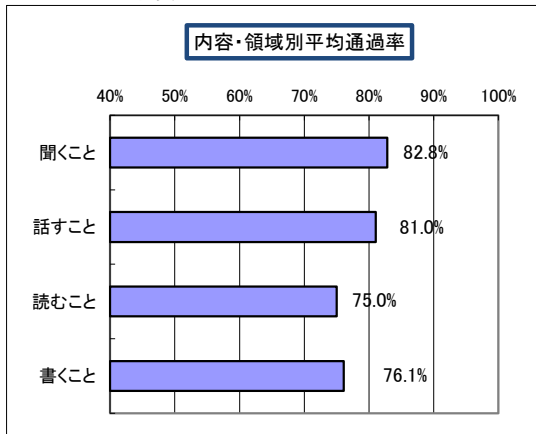
鹿児島学習定着度調査の課題と対応

- 「地震の伝わり方」、「動物の分類」、「電気分解」、「酸化・還元」、「電気回路」、「重力の働き」などについて、知識等の基本的概念は定着しているが、事象が生じる仕組みや規則性の理解が十分でなく、さらに実験操作や作図等の技能などの習得も不十分である。
- 「化学変化」や「消化・吸収」など、視覚的に実感することが難しい現象をモデルで理解したり、グラフや図表から現象の情報を読み取りイメージしたりすることが十分でない。
- 化学変化における原子の種類や数の保存、消化と吸収における仕組みと働きに関連などをモデルで説明したり、立体的な地層モデルでの視点移動（観察者の視点と鳥瞰的な視点）を通して空間概念を養ったりして、実感を伴った深い理解を図る必要がある。

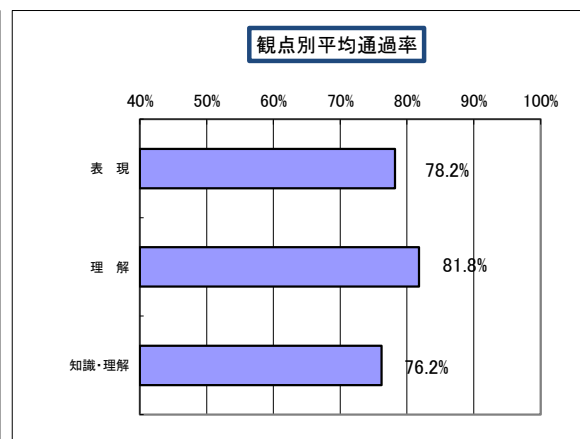
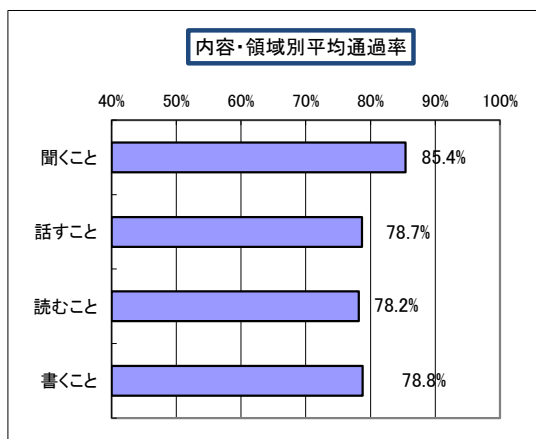
(5) 【英語】

中学校第1学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

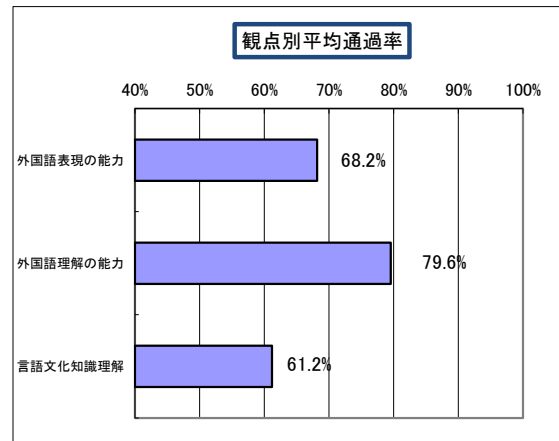
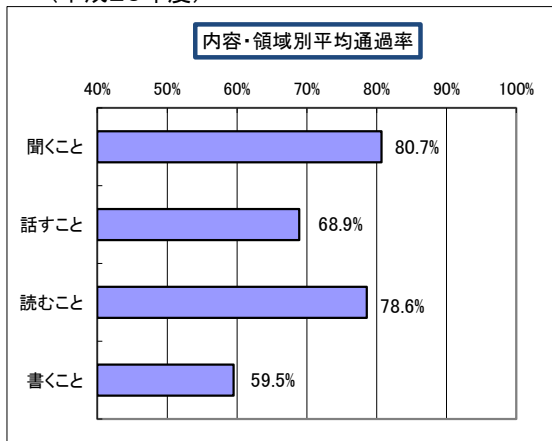
- 内容・領域及び観点別ともに概ね7割を超える通過率である。「聞くこと」と「読むこと」の領域の通過率が、「話すこと」と「書くこと」の領域の通過率を上回っている結果が継続している。理解から表現へつながる学習活動の展開において、言語活動の充実が図られるよう指導の工夫・改善が必要である。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

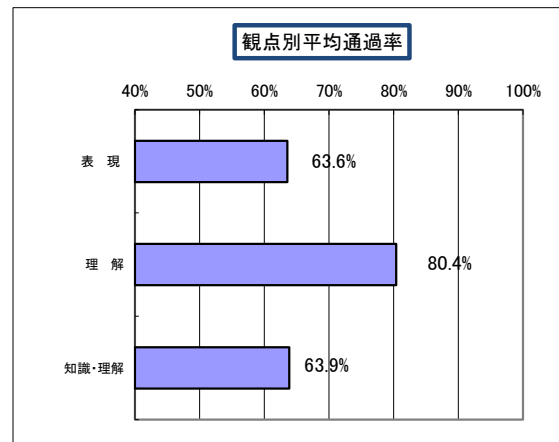
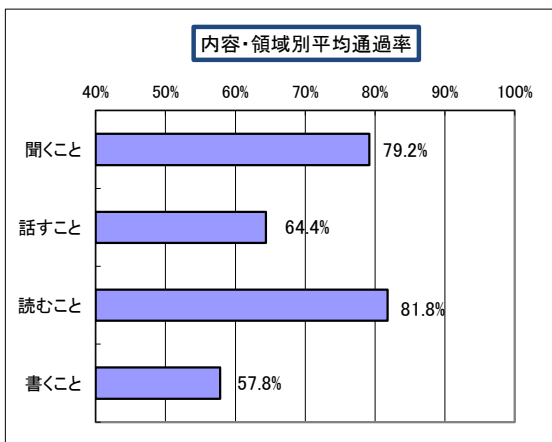
- 「基礎・基本」については、概ね定着が図られているが、not を用いて否定文をつくる設問の通過率が43.9%、whose を用いて疑問文をつくる設問の通過率56.9%であり、否定文やwh-疑問文の定着を図る必要がある。
- 「思考・表現」については、まとまりのある英文を聞いて Does を用いた疑問文に回答する設問の通過率が54.0%、対話文における代名詞 it の内容を問う設問の通過率52.5%であり、代名詞を用いた文に習熟させる必要がある。
- 知識や技能の習得が概ね図られているが、文と文のつながりなどに注意して、自己紹介や身近な場面における出来事などについて英語で表現する活動に一層取り組ませる必要がある。

中学校第2学年

(平成25年度)



(平成24年度)



平成25年度と平成24年度との比較

- 「聞くこと」と「読むこと」の通過率が、「話すこと」と「書くこと」の通過率を上回っている結果が継続している。H24に比べH25は、「読むこと」の領域及び「理解」の観点別でやや通過率が下回っている。語彙や表現、文構造等について確実な定着を図り、理解から表現する活動へつながる指導の工夫・改善が必要である。

鹿児島学習定着度調査の課題と対応

- 「基礎・基本」については、概ね定着が図られているが、**study** を適切な形にかえて過去形の文をつくる設問の通過率が **54.6%**、**what** を用いて疑問文をつくる設問の通過率 **55.3%** であるなど、過去形の文や **wh**-疑問文の定着を図る必要がある。
- 「思考・表現」については、文章を読み要点を把握する設問の通過率が **56.9%**、**why** の疑問文に適切に回答する英文を作成する設問の平均通過率が **52.6%** である。口頭で英問英答を行ったあと、その内容について英語で書く活動などの充実を図る必要がある。
- キーワードや基本表現、段落の関係などに注意して英語の文章を読むことや、身近な場面における出来事や体験したことなどについて英語で表現する活動に一層取り組ませる必要がある。